

# 医科薬理学教育における P-Drug 連動型ロールプレイ演習

根本 隆行<sup>1)</sup> 柳田 俊彦<sup>2)</sup> 田頭 秀章<sup>1)</sup>  
喜多 知<sup>1)</sup> 小松 知広<sup>1)</sup> 岩本 隆宏<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 福岡大学医学部薬理学

<sup>2)</sup> 宮崎大学医学部看護学科臨床薬理学

要旨：福岡大学医学部では、医学専門知識の修得に加え「自修性と問題解決能力の涵養」および「指導力・協調性の確立」を目標として、反転授業や協働学修といった能動的な学修法（アクティブ・ラーニング）を推進している。当薬理学講座では、医学科3年生の薬理学カリキュラムにおいて、“適正な薬物治療プロセスを早期に学ぶ”ことを目的としたP-Drug（Personal Drug）演習（福岡大医紀40: 81-85, 2013）と“薬物治療プロセスと薬物情報を患者に対してわかりやすくかつ適切に説明する”ことを目的としたロールプレイ演習（福岡大医紀42: 183-188, 2015）を薬理学教育に取り入れてきた。これまで、それぞれ個別の演習として異なる症例課題を用いて行ってきたが、令和3年度では、両演習の相乗効果を期待した新しい試みとして、同一の症例課題を用いたP-Drug連動型ロールプレイ演習を実施した。本演習後の学生アンケート調査から、P-Drug連動型ロールプレイ演習は、以前の単独型ロールプレイ演習より学修効果が大きいことが示唆された。来年度以降もP-Drug連動型ロールプレイ演習を継続して行きたいと考えている。

キーワード：アクティブ・ラーニング, P-Drug, ロールプレイ